

# 2021年度 大麻藤認定こども園 自己評価

2021年度 大麻藤認定こども園 自己点検・自己評価結果

## 1・大麻藤認定こども園の教育目標

- ・自分を信じ、自分を愛することができる子ども
- ・思いやりや感謝の心を持てる子ども
- ・主体的に、生き生きと生活できる子ども

「自分でしたい！」を大切に、  
「自分でできた！」という喜びを積み重ねることにより、  
主体的に生き生きと人生を歩いていくための力を養います。

## 2・学校評価の具体的な目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組み、保育の質の向上に繋げる。 2022年3月

## 3・評価項目の達成および取り組み状況

〈今年度の経営の重点〉

- 保育の質の向上のための研修計画
- 幼保連携型認定こども園としての人員配置と経営の安定
- それぞれの役割の明確化

( A : 十分達成している B : 達成できている C : 取り組まれているが成果が十分ではない D : 取り組みが不十分である )

| 分野                   | 評価項目                                                                        | 自己評価 |                                                                                                                          |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      |                                                                             | 達成状況 | 改善の方策                                                                                                                    |
| 教育及び保育方針、<br>教育・保育計画 | 園の建学の精神にあるキリスト教の理念に基づいた園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解している。                           | B    | 大麻藤幼稚園からの保育教諭、カトリック学園からの異動による保育教諭、新採用の保育教諭と、認定こども園に移行してからの保育教諭の定着とともに、安定した自園の教育・保育理解が出来るよう研鑽を深めていく。                      |
|                      | 園の教育・保育理念及び目標とこども園教育要領の関係を理解し、子どもの生活実態に即した計画作成に努めている。                       |      | 今の子どもたちの状況を把握しながら、保育計画を立てることができた。計画立案に関しては、経験の浅い保育教諭の考えを尊重しながら、経験のある保育教諭が助言しつつ進めていく。                                     |
| 教育・保育内容              | 0歳児から就学前までの一貫した教育及び保育を、園児の発達や学びの連続性を考慮して展開している。                             | B    | 乳児クラスから幼児クラスへの移行にハードルの高さを感じたため、今年度2歳児クラスでは、先を見通した保育内容を考え進めていくことが出来た。今後は更に、乳児から幼児への保育の繋がりを考えて理解を深めていく。                    |
|                      | 在園時間が異なる多様な園児がいることを踏まえ、園児の生活が安定するよう、家庭や園における生活の連続性を確保し、1日の生活リズムを整えるよう工夫している |      | 2・3号認定児は食事や睡眠など、個々の状況にあった対応をすることが出来た。1号認定児は感染症による保育の継続が難しかったことが残念であるが、異なる登園時間の中でも工夫して遊びの時間の確保をしたり、基本的な生活習慣の自立に向けて援助してきた。 |
|                      | 園児一人一人の人格を尊重し、安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組めるよう適切に働き掛けている。                         |      | 年齢に応じて丁寧に個々と関わったり、過度に関わりすぎず見守ったりと配慮してきた。一人の子どもの対応について、担任だけではなく保育教諭間で共有し連携を取ることが出来た。                                      |

| 分野                                             | 評価項目                                                                                                  | 自己評価 |                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                |                                                                                                       | 達成状況 | 改善の方策                                                                                                                             |
| 保育<br>教諭<br>の<br>資<br>質<br>の<br>向<br>上         | キリスト教の教えを学び、乳幼児に伝える指導法を研究する。<br>また、日常的に神さまの存在に触れるよう伝えたり、年齢に応じて宗教講話や神様の話をしている。                         | B-   | 乳児から散歩のときにマリア様に「行ってきます」をしたり、戸外で摘んだ花をマリア様の前に飾る、食事の前に手を合わせ食への感謝の気持ちを持つところからが一步であることを感じていく。幼児では神さまの存在が、人としての大切なことを学ぶ時間として、伝え方を学んでいく。 |
|                                                | 組織の一員としての在り方として、当番や役割による仕事は確実にを行い、皆で助け合いながら進めている。                                                     |      | 自分の仕事の役割については、個人の見解の差はあるが責任を持って進めることが出来ている。今後は決められた役割以外でも、急な対応や欠勤が出た際の仕事の分担などを一人ひとりが自主的に進めていけるようにする。                              |
|                                                | 資質の向上を図るため、主体的、計画的に研修会に参加し終了後は研修報告を提出し還流を行っている。研修のみならず、自ら調べたり、本を読む等自己研鑽に努めている。                        |      | リモートでの研修の機会が増え、逆に移動時間もなく研修には参加しやすくなった。研修で学んだことを園内研修として共有したり、自分で学びたいことを明確にし積極的に学びの機会を持つ。                                           |
| 子<br>ど<br>も<br>の<br>健<br>康<br>及<br>び<br>安<br>全 | 新型コロナウイルス感染予防対策では、様々な情報を整理しながら教職員と話し合い、衛生管理に努めている。また、保護者と連携を取りながら体調管理に努めている。                          | B+   | 日々変化していく情報を把握していく難しさはあったが、園で出来る限りの対策を話し合い、情報を得ながら進めてきた。また、保護者の方へ協力を依頼することも多かったが、柔軟に対応していただけた。                                     |
|                                                | 保育に制限の多い中、積極的に戸外で体を動かせるよう、外遊びの時間を確保し、四季の移り変わりを感じられるよう配慮している。                                          |      | 出来る範囲で戸外遊びを取り入れた。隣接する公園の木々が四季の移り変わりを感じさせてくれる環境であることが貴重である。次年度は園外保育や水遊びを思い切り楽しみたい。                                                 |
|                                                | 常に事故防止に努め、睡眠中、水遊び中、食事中、園外保育中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、園児の主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行い、必要な対策を講じている。 |      | 午睡中の見守り、食事中の誤飲、園外での安全など、教職員の配置や事前確認を共有して行うことが出来ている。<br>乳幼児の事故のニュースも後を絶たないが、重大事故があったときには、自園だったらという仮定のもと対策を講じていく。                   |
|                                                | 万が一、怪我や事故が起きたときは、その発生状況の問題提起をし、教職員で話し合い再発防止に努め、記録に残している。                                              |      | また、怪我があった際は振り返り、再発防止について話し合っていく。怪我の大きさに関わらず、ヒヤリハット報告書として記録に残していく。                                                                 |
| 事故の発生に備え、自然災害や不審者侵入に対する訓練を行い、反省点を洗い出し改善を図っている。 | 様々な想定での訓練を増やし、どのような状況でも教職員が自分の行動を的確に判断できるようにしていく。                                                     |      |                                                                                                                                   |

| 分野      | 評価項目                                                                                   | 自己評価           |                                                                                                                                         |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                                                                                        | 達成状況           | 改善の方策                                                                                                                                   |
| 特別支援教育  | 特別な配慮を必要とする園児は、集団の中で生活することを通して、共に育つことが出来るように組織的に指導方法を共有している                            | B              | 家庭、園、療育機関と連携を取り、同じ方向で子どもの育ちを見守ることが出来るように引き続き進めていく。保育教諭間でも情報の共有を徹底し、細かい変化にも気付き育ちに生かせるようにする。                                              |
|         | 家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で園児への教育・保育支援を行うために、個別の指導計画を作成している。             |                | 江別市の関係機関とは市の事情で連携は少なかったが、民間の関係機関とは出来る範囲の中での連携は出来た。個別の指導計画の立案にも生かされたが、タイムリーな対応を考えたいときに日程が合わず、時差が生じることが多く残念だった。江別市の地域情報の知識を保育教諭全体で共有していく。 |
| 食育の推進   | 園児が生活の中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しむことを大切にしている。また、必要なマナーも伝えている。                       | B <sup>+</sup> | 食事の時間は楽しい時間となることを大切にしてきた。行事食は見た目の工夫があり、グルメの旅など子どもたちが「美味しかった！」という経験が持てたのは良かった。今後は保護者の給食試食会や食の講座などの機会を企画したい。                              |
|         | 乳幼児期にふさわしい食生活が展開されるよう、年齢や個々に応じた適切な援助を行っている。また、保護者との連携も図っている。                           |                | 個々の食への嗜好に対応し、継続して援助している。年度末になり、食べる量や食材が増えてきているのを実感している。保護者とも連携を図り、食具の使用についての連携や食事量の把握をすることが出来た。                                         |
|         | 給食会議は、園長、乳児担当、幼児担当、管理栄養士、外部委託会社社員が参加し、適切に開催し食の向上に努めている。また、記録も整備している。                   |                | 担当ごとに意見を出し合い、改善すべきところは管理栄養士を通し連携を取ることが出来ている。会議以外でも給食ノートを作成したので、日々気の付いたことは積極的に発信し、食の向上に努めていく。                                            |
| 小学校との連携 | 小学校訪問・交流などで小学校教育への接続を図るとともに、「幼保連携型認定こども園園児指導要録」を作成し、就学する子どもたちへの不安を取り除けるよう丁寧な引継ぎを行っている。 | B              | コロナ禍で入学式や運動会の参加が叶わないのは残念。また、年長児のスムーズな就学に向けて、小学校訪問は今後復活させたい。就学に向けての引継ぎは電話が主流になっているが、丁寧に伝えることは出来ている。                                      |

| 分野            | 評価項目                                                                             | 自己評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                         |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |                                                                                  | 達成状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 改善の方策                                                                                                                                   |
| 開かれた園づくり      | コロナ禍であるが、園だよりやホームページ、行事参観、懇談などを通して園の情報を広く公開するとともに保護者の声にも耳を傾け、双方向に開かれた園づくりに努めている。 | B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ブログは通常保育期間は毎日更新し、園の様子の公開に努めている。出来る限りのことはしてきたが、感染の波の予測は難しく思い通りにはならなかった。今後は、コロナとの共存の方向になっていくと思うので、感染状況を見ながら人数制限や回数を増やすなどして、参観懇談の機会を設けていく。 |
|               | 保育の専門性を活かし、地域の乳幼児が健やかに育つ場所の提供をしている。またその保護者にも交流の場や子育ての情報提供が出来るよう努めている。            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | コロナ禍で未就園児クラスの開催回数が減ったり、人数を分散しての開催になってしまった。その中で出来る限りの場の提供が出来たと思う。家庭以外で遊びの場を確保することが難しい状況なので、保護者の閉塞感を解消するためにも魅力的な場の提供が出来ると良いと思う。           |
|               | 園の評価結果を公開することにより、透明性を図り信頼される園を目指している。                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 引き続き、信頼される園づくりを目指していく。                                                                                                                  |
| 自己評価における意見、感想 |                                                                                  | <p>自己評価をすることで見えてくることがある。自分の中で足りないところ、達成されていることが明らかになり、次年度の保育へ繋がっていくことが出来ると思う。</p> <p>園としては、教職員が増えたことでカトリック園としての学びを今一度見直していきたい。教職員間はそれぞれの役割に応じて、協力しながら保育を進めていくことが出来ている。その中で、個人の学びの目的意識を高め、保育の質の向上に努めたい。</p> <p>コロナ禍の2年間から3年目になる2022年度は、コロナとの共存の道を探りながら進むことになる。情報発信の工夫やICTを活用した情報提供、子どもたちの生の姿を見る機会、保護者同士の交流など出来ることから進めていけたらと思う。</p> |                                                                                                                                         |

## 6・学校関係者評価委員会の意見

コロナ禍の制限のある中で、試行錯誤しながら保育を続けていることがよく分かった。様々な意見はあるが、子どもたちにとっての1年がどれだけ大切なものかを考えた上の気持ちだと思う。その中で祈りを通しながら、子どもたちの心の中に思いやりや相手を敬う気持ちが育まれていると実感している意見が多くあり嬉しく思う。園の取り組みや教職員の姿勢が、アンケートの一言一言から保護者に伝わっているのを感じる。目標を100%達成するのは難しく、自己評価は辛くなりがちであるが、改善の方策が考えられているので、今後こども園としての年数を重ねていくことで向上していくように思われる。

## 7・財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。